

平成 23 年度 教育委員会評価について

平成 25 年 3 月

平成 23 年度重点施策別評価

1. 子どもをとりまく諸活動の集大成としてのまとめ

(1)雲南市教育フェスティバル 2011 の開催

①目的・意図

教育施策の成果と検証の場とする。また、校長協議会、園長会、PTA連合会等と連携し実施する。

②目標達成度(取組事業)

11月26日～27日に加茂文化ホールを中心として開催。「新たな力の創造に向けて！雲南市からの発信！」をテーマにPTA連合会研修会も兼ねて講演会、夢発見ウイーク・幸雲南塾の実践報告、中学生カタリバ公開授業、熟議、男女共同参画事業、上代タノ先生・加藤歎一郎先生顕彰、円卓会議などを開催。延 1,200 人の参加者があり、初期の目的を達成した。

・総合的な教育施策の成果と検証の場。

・1年間の子どもをとりまく諸活動の集大成をフェスティバルという形で外部発信。

・雲南市の子どもたちの成長を見つめることをねらいとする。

・校長協議会、園長会、雲南市PTA連合会との連携・協力を強化し運営体制を充実。

・うなんブランド化に位置付け、部局間の連携の下に実施。

・年度当初から、総務課・社会教育課・学校教育課の協力体制のもとで企画立案をし、雲南市教育基本計画の趣旨に沿った教育活動の集大成としてのフェスティバル。

③今後の課題

円卓会議の中で、次年度からの方向性が論議され、雲南ブランド化事業の一環としての他事業との連携を検討する必要がある。

2. 学校・家庭・地域・行政の協働を推進し、社会全体の教育力を向上させる。

(1)学校・家庭・地域の連携・協力システムの充実(学社協働の推進)

①目的・意図

地域全体で学校を支援し教員の負担を軽減し子供と向き合う時間を確保すると共に市民が学校と関わることで地域の教育力を向上させることを目的とする。

②目標達成度(取組事業)

学校支援地域本部事業=学校支援ボランティア述べ回数 5,450 回

学校支援ボランティア述べ人数 25,920

コーディネーター配置数(教育支援 教育委員会職員) 7名

(教育支援 地域住民)20名

(社会教育 教育委員会職員5名 嘱託2名)7名

③今後の課題

事業費(国庫・県費補助)、市職員が減少していく中で今後どう学校支援体制を維持していくのか学校・地域をどう連携させていくのかが課題である。

(2) 学校・家庭・地域の連携による情報モラル教育の推進

① 目的・意図

インターネットや携帯電話の利用が子どもたちの間で急速に普及する中で、インターネット上での犯罪や違法・有害情報などの問題を解決するため、学校・家庭が一体となって情報モラル教育の推進に取り組むことを目的とする。

② 目標達成度(取組事業)

○情報モラル教育啓発事業

- ・小・中・高等学校へ情報モラル教育・ICT教育に関わる講座の実施。
- ・情報モラルに関連する課題の有無について学校側へヒアリングを実施。

○モデル校事業

- ・三刀屋小学校、三刀屋中学校の全校生徒約 500 名に GPS 機能付き、機能限定携帯電話を貸与し、モニタリング調査を行う。

③ 今後の課題

これをきっかけに、情報モラル教育啓発事業を継続的に実施しなければならない。

(3) 家庭・地域の教育力の向上(学校支援・家庭教育支援)

① 目的・意図

地域が学校を支援し、市民が積極的に学校と関わることにより地域の教育力を向上させる。
また、教育フェスティバルにおけるPTA活動との連携や各学校やコーディネーターとPTAが連携した研修会の開催、親学プログラムの推進を図り家庭教育の支援を行い、家庭・地域の教育力の向上を目的とする。
また、「教育支援コーディネーター」「社会教育コーディネーター」「地域づくり担当職員」の連携を図り学校・家庭・地域の教育力の向上を図る。

② 目標達成度(取組事業)

学校・地域自主組織が連携して行う子供を中心とした事業(キャンプ・通学合宿・世代間交流等)の実施、教育フェスティバルでの子供を中心とした社会教育の実践発表、親学プログラムの実施 6 回・119 名参加)

③ 今後の課題

地域自主組織が多忙となっており、今後も子供を中心とした社会教育の進展を柱として組織運営が継続できるのか。行政として職員が減じる中でコーディネーター制度を有効に活用しどのような方法で学校・家庭・地域の連携を図るのか。

3. 特色ある幼稚園・学校教育の推進(保幼・小・中の連携)

(1) 中学校区における保幼・小・中の連携

① 目的・意図

教育委員会が策定している「夢」発見プログラムを推進するためには、中学校区における保・幼・小・中の接続が重要となってくる。雲南市が目指す子供像の具現化のため、一貫した教育体系を構築する。

② 目標達成度(取組事業)

- ・中学校区における管理職会の連携

- ・中学校区ごとの管理職会の充実
- ・校種や学校の枠を超えた積極的な研修や情報交換の場の設定
- ・学校間の交流学习の積極的実施
- ・保幼・小・中の一貫性のある教育の積極的推進

③今後の課題

今後一層の交流(授業参観等)に必要がある。

(2)「夢」発見プログラムの推進

①目的・意図

ふるさとへの愛着や誇りを育てるため、地域とのつながりを活かした教育を小中一貫で展開し、自分に自信をもち自己肯定感を高め、将来への夢や高い目標を育む。

②目標達成度(取組事業)

平成 22 年度策定した幼児期版の「夢」発見プログラムの試行実施を行った。次年度からはすべての保・幼で取り組む。

現在ある義務教育版の「夢」発見プログラムの見直しを行う。シート1の見直しを完了する。

社会教育コーディネーターについてはふるさと教育・健康体づくり・不登校児童生徒対応プログラムを計画的に実施し、夢発見プログラムの推進に寄与した。また、課題であった教育支援コーディネーターと社会教育コーディネーターの役割についても教育支援は学校主体、社会教育は学校・家庭・地域を結ぶものとの一定の整理がついた。

島根大学教育学部の 1000 時間プログラムに登録し、幸雲南塾へ三刀屋・大東高校生と共に島根大学生が参加。中学生との斜めの関係を構築したほか、教育フェスティバル、熟議、白熱教室へ島根大学生が参加し、高校生・島根大学生との連携が構築された。

永井隆平和賞については、小学 6 年生が修学旅行で訪れる広島原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子の甥の佐々木祐滋氏のコンサートを実施し好評を得た。

幸雲南塾inさんべについては、前出したとおり高校生・大学生の参加もあり、参加者の満足度も高く、参加した中学 3 年生はこれからの人生に真剣に向き合う転機となったとの多くの感想を得た。

③今後の課題

平成 24 年度「夢」発見プログラムのシート2部分の見直しを行い、改訂版の発行を行う。

職員定数が減じられていく中で社会教育コーディネーターの役割について、業務体制も含め今後検討が必要。

高校との連携、大学との連携について今後も密にしていく必要がある。

永井隆平和賞については平和教育と式典のつながり、一般市民の関わりや参加等課題である。

4. 「生きる力」の育成(幼稚園・学校の組織力の向上と教育内容・方法の充実)

(1)園長・校長の経営ビジョンの確立および明確化

①目的・意図

園長・校長が特色ある園・学校経営ビジョンを明確にし、「夢」発見プログラムが目指す「生きる力」の醸成の推進を図る。

②目標達成度(取組事業)

- ・園長、校長の経営ビジョンの明確化および協力依頼(教職員・保護者・地域に対して)
- ・自主・自律の幼稚園・学校経営・運営による園・学校の特色づくり
- ・地域の中の幼稚園、小中学校の位置づけおよび果たす役割の明確化
- ・学校評価・教職員評価システムの効果的活用
- ・全教職員による組織目標の確立と明確化
- ・PDCAサイクルの重視・・・より効率的な園・学校経営
- ・園長、校長の代表との定期的な懇談会(トップミーティング)の設置

③今後の課題

園長・校長の経営方針を全職員が共通課題としていかなければならない。

(2)「確かな学力」の定着

①目的・意図

平成21年度に幼稚園教育要領が平成23年度に小学校学習指導要領及び平成24年度には中学校学習指導要領が完全実施および移行実施する。新指導要領の趣旨に沿った充実を図る。

②目標達成度(取組事業)

保育および授業の充実を行った。

- ・「言語活動」を重視した授業の展開
- ・「体験活動」を重視した授業の展開(学校内外における体験活動の重視)
- ・ねらいが明確で豊かな経験ができる保育とわかる授業の展開
- ・コミュニケーション能力の育成(全教育活動を通して)
- ・授業にかかわる教育支援コーディネーターと社会教育コーディネーターの役割の明確化
- ・小学校社会科副読本の作成と有効活用
- ・「健康と体力づくり」をテーマとした取組
- ・モデル校・・・西小学校・寺領小学校・掛合小学校
- ・社会教育コーディネーターの役割の明確化
- ・連携および協力依頼・・・学校・地域・家庭・教育委員会・身体医学研究所うんなん、キラキラうんなん・関係機関および団体
- ・学校司書の配置(三刀屋中学校・大東小学校・掛合小学校)
- ・司書資格所有者の配置(教育委員会社会教育課に配置)
- ・学校と市立図書館、教育委員会との連携・協力

③今後の課題

雲南市教育研究会と連携し、今後研修会の企画等を進める。

(3)規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育む

①目的・意図

社会教育の視点から学校教育を支援し、児童生徒の健康体力づくり・読書活動の充実・人権同和教育及び道徳教育の充実を図る

②目標達成度(取組事業)

社会教育コーディネーターにより健康体力づくり活動を笹川スポーツ財団との共働研究事業として西小・寺領小・掛合小で実施。市立図書館については23年度よりキラキラうんなんに業務委託

をし、より柔軟な運営が可能となった。また、国の緊急経済対策を活用し市立図書館と学校図書室の蔵書検索システムを導入し連携を図った。また司書資格職員を社会教育課に設置し支援を行った。人権同和教育及び道徳教育の充実については転入教職員研修 教職員懇話会 教職員同和問題研修会 公開授業等を実施し学校との連携を図った。

③今後の課題

社会教育コーディネーターによる健康体力づくり活動の内容の検討。市立図書館と学校図書館の連携の在り方。人権同和教育及び道徳教育の充実については、引き続き学校と連携し啓発活動を実施する。

5. 特別な教育的支援を必要とする子どもや教育的配慮を要する子どもの学びの保障

(1) 幼稚園・学校支援

①目的・意図

支援を必要とする児童生徒が学校生活を不安なく過ごせる学校環境と、保護者が安心して児童生徒を送り出すことができること。また、教員が学級全体を見渡す余裕のある学級経営の実現を目指す。

②目標達成度(取組事業)

- ・支援員・介助員・日本語指導員の幼稚園・学校配置
- ・平成23年度・・・ 支援員(31名)介助員(4名)日本語指導員(3名)配置

③今後の課題

学校からの支援員の要望は年々増加している。しかし、配置の人員財源は限られており、児童生徒の的確な把握及び指導研修といった部分も従事させる必要がある。

(2) 個に応じた支援

①目的・意図

心身の障害により学習が困難な児童生徒、就学前児童に対して個に応じた学習環境と、支援プログラムを策定し、個の育ちを支援する。

②目標達成度(取組事業)

- ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の見直し・作成・活用
- ・就学指導委員会の充実
- ・特別支援連携協議会の充実
- ・通級指導教室(木次小学校 2名、木次中学校1名)の効果的運営

③今後の課題

個に応じた支援に対する要望は増加する傾向にある。しかし、支援を推進するためには、保護者の理解が不可欠となる。今後そういった部分の理解促進が課題となっている。

(3) 教育相談

①目的・意図

不登校、暴力行為、児童虐待などの問題は、それぞれの園児・児童・生徒自身の問題や、家庭、友人関係、学校などの環境による問題が絡み合っているケースがみられる。関係機関と調整・連携を図りながら、どのような対応が望ましいか判断し支援し、学校、家庭、児童生徒を支援する。

②目標達成度(取組事業)

- ・専門の相談員配置・・・スクールソーシャルワーカーを教育委員会に配置
- ・特別支援関係
 スクールソーシャルワーカー・指導主事・主任指導主事の幼稚園・学校訪問
 県立養護学校および関係諸機関との連携

- ・生徒指導関係
 スクールソーシャルワーカー・指導主事・主任指導主事の幼稚園・学校訪問
 児童相談所、教育支援センター、相談センター、警察等、関係諸機関との連携
 不登校対策・・・不登校対策プログラムの作成
 社会教育コーディネーターの配置(加茂小学校・三刀屋小学校)

③今後の課題

各施設、機関へのスクールソーシャルワーカーの周知と積極的な指導主事・主任指導主事の幼稚園・学校訪問を展開する。

6. 安心・安全な教育環境の実現と充実した教育活動を支える環境の整備

(1)施設整備

1)耐震工事関係

①目的・意図

学校施設の耐震化、安心・安全な学習環境の確保が学校施設整備の最重要課題として位置づけ早期完了を図る。

②目標達成度(取組事業)

西小学校屋内運動場、海潮小学校校舎、木次中学校校舎の耐震補強工事について夏季休業中を中心として実施した。また、木次小学校校舎、鍋山小学校校舎、木次中学校校舎、加茂中学校校舎の耐震補強設計を完了した。平成23年度末の耐震化率は87.3%となった。

③今後の課題

平成24年度以降の耐震補強工事について、予定どおり進める必要があり、平成25年度には市内小中学校施設の耐震補強工事を終了する。

2)給食関係

①目的・意図

安心、安全な学校給食の運営をする。

②目標達成度(取組事業)

市内小・中・幼・保育所について4,300食の給食を提供した。

大東、木次、三刀屋の給食センターについて、調理業務の民間委託を開始した。合わせて、調理業務等委託評価委員会を設置し、委託事業の評価を実施した。

学校給食全体では、大きな事故等もなく、順調に給食提供ができた。

③今後の課題

引き続き、安心、安全な給食提供をすることと、地産地消を推進する。

学校給食会について、組織体制の方向性を整理する必要がある。

3)安全に関すること

①目的・意図

危機管理マニュアルの確認、登下校時の安全確保を地域との連携も含めて進める。

②目標達成度(取組事業)

教育委員会における危機管理マニュアルの整理並びに各学校等における危機管理マニュアルの確認作業を実施した。

地域ボランティア組織との連携を図りながら、登下校時の安全確保にとり組んだ。

③今後の課題

学校等における様々な危機管理について、迅速・丁寧な対応が求められており、関係各所との連携がさらに重要となっている。

4) 幼稚園・学校の適正規模適正配置

①目的・意図

学校適正規模適正配置基本計画に基づく地元協議をおこない、学校の適正規模適正配置をめざす。

②目標達成度(取組事業)

吉田小学校民谷分校の閉校に伴う地元協議を進め、3月18日に閉校式を挙行。

阿用幼稚園について地元協議を進め、閉園を決定し、3月24日に閉園式を挙行。

久野幼稚園について休園中であったが、地元協議を進め3月31日で閉園することを決定。

③今後の課題

温泉幼稚園、温泉小学校、飯石幼稚園、飯石小学校について、引き続き地元協議を進める。